

**このファイルは、当社が
2023年4月1日～2024年3月31日の
「エコアクション21」に従って編集した
環境活動レポートです。**

**ご理解とご支援を賜いますよう
お願い致します。**



2024年8月10日

**株式会社 セルコ
代表取締役 会長 小林 延行**

ご挨拶

昨今の地球環境は、過酷な状況となっており、各国が色々と手を打っているものの、一向に改善の兆しは見えません。

私は、この温暖化現象は、ただ単に人間が排出する二酸化炭素によるものだけではなく、自然の周期的な現象がメインだろうと思っています。

このような中で、当社はこのエコアクション 21 に取り組み、少しでも環境に良い経営を目指すべく、出来るかぎりのことを実施してきました。

そして、かなりの成果を上げてきました。

当社のエコアクションの取り組みは、全て実質で行っています。実質と言いますのは、エコアクションのための資料作りは一切やりません。

ISO もそうですが、当社の会社の目標、部門の目標は全てこれらの目標と合致させているため、そのための資料は不要なのです。

特にエコアクションの場合は、実質的な成果がかなり出ました。

例えば、電気のピークを抑え、翌年からの基本料金を抑えるための警報装置を取り付け、警報が鳴ったら、いくら寒い中でも一時的に電気を切りピークをやり過ぎたり、少し余裕がある時には、社内の蛍光灯を全て LED に替える。あるいは、エアコンやコンプレッサーを古い効率の悪いモノから新しいモノに替える。車もハイブリットに替える。その LED も蛍光灯それぞれに紐のスイッチを付け、不要な場所はこまめに電気を消す。冬、夏の温度を設定し、むやみに暖房、冷房を強くしない等のケチケチ運動を徹底したりで、毎年それなりの成果が上がり、エコアクションの総会で表彰されたりしたこともありました。

それにしても最近の電気料値上がりは、私たちにとってはかなりメンタル的なダメージを受けています。

しかし、とにかく、いつどんな時でも、出来るだけのことはする…という思いで、今後もこの活動を続けていきたいと思っています。



環境経営理念・方針

< 1 > 環境経営理念

永続した世界の繁栄と幸福のために、地球環境と調和した企業活動を行う。

< 2 > 環境基本方針

- ① 地球環境と調和する製品の開発に努める。
- ② 環境に与える影響を最小限に抑えた生産活動に取り組み推進する。
- ③ 環境に関する法律を遵守し、行政の指導及び要請に積極的に対応する。
- ④ 環境教育および啓発活動を積極的に行い、全従業員で地球環境保全に取り組む。

『スローガン』

地球環境保全のため、自ら持てる技術力と創造力を遺憾なく発揮し、環境との調和を図り、人類の繁栄を目指す。

< 3 > 環境経営方針

株式会社セルコは、環境基方針のもと、環境と生産活動の調和のため、以下に掲げる施策を知恵と創造力と行動力で推進し、地球的自然環境の保全に貢献する。

1. 省エネ、高効率、高性能の製品を造り、社会に貢献する。
2. 有害化学物質による環境汚染および生物への悪影響を防止する。
3. 生産活動による環境負荷を最小限にし、グリーン調達を推進する。
4. 法の遵守はもとより、地域や顧客の環境要求を受け入れる。
5. 従業員の環境意識向上に努め、工場全体で継続的な環境改善活動を行う。
6. 地域社会とのコミュニケーションを大切にするとともに、地域における環境保全に係わる活動に勤める。

< 4 > 環境経営方針の公開

本環境方針は、求めに応じ、制限無く公開する。

2006 年 4 月 20 日
2024 年 4 月 4 日見直し
株式会社 セルコ
代表取締役社長
小林 靖知

1. 事業活動の概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社セルコ

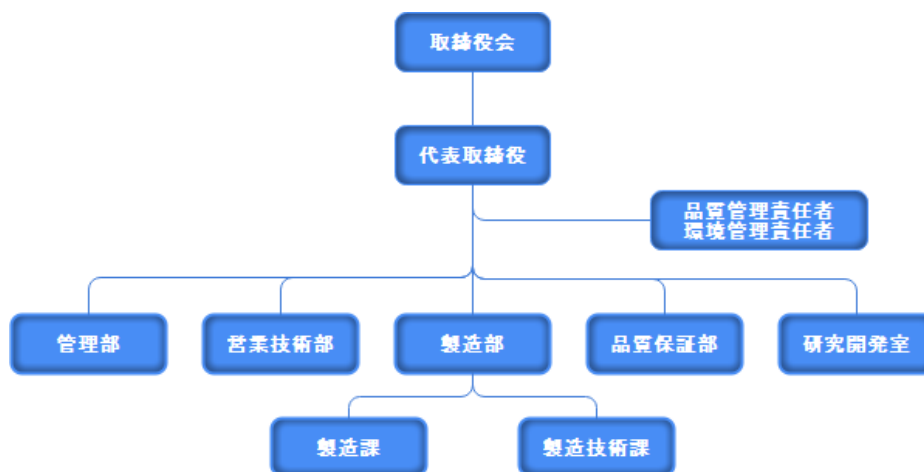
代表取締役社長 小林靖知

2) 所在地

長野県小諸市大字御影新田 2130-1

3) 組織と対象範囲（全組織・全活動を対象範囲とする）

株式会社 セルコエコアクション 21 組織図 （2023 年 4 月 4 日 現在）



4) 環境保全関係の責任者及び担当連絡先

環境管理責任者（代表取締役会長） 小林延行

連絡先 電話 0267-23-3322

FAX 0267-22-2233

5) 創業

1970 年 7 月 29 日

6) 資本金

4,000 万円

小型コイル製造を中心とした下記の事業内容

コイル加工（コイル巻線）

プラスチック射出成形（精密コイル成形）

組立・アッセンブリ（コイルに付随する組立）

新製品（コイル機能を持つ新製品開発）

	単位	2022 年度	2023 年度
売上高	百万円	1362.82	1169.20
月平均売上高	百万円	113.56	113.56
従業員数	人	約 45	約 43
延べ床面積	m ²	3,100	3,100

2. 中期環境目標

「表 1 環境改善中期目標」参照

表 1 環境改善中期目標

	改善目標項目	2022 年度目標	2023 年度目標	2024 年度目標
1	売上目標（百万円）	1,500	1,500	1,500
2	使用電力量（MWh）	226 以下	224 以下	222 以下
3	二酸化炭素排出量（トン）	113 以下	112 以下	10 以下
4	製品不良金額（千円）	7,731 以下	3,000 以下	3,000 以下
5	産業廃棄物の削減（Kg）	2,768 以下	2,712 以下	2,682 以下
6	高効率製品の受注	平角、丸線、高密度製品の受注	平角、丸線、高密度製品の受注	平角、丸線、高密度製品の受注
7	水道水の削減（㎡）	454 以下	454 以下	454 以下
8	ソーラーパネル/屋根貸事業	維持管理	維持管理	維持管理

3. 2023年度環境目標と実績

1) 2023年度 環境活動目標と実績評価結果

2023 年度の実績と評価を「表 - 2 環境改善目標と評価結果」に掲載した。

表 2：環境改善目標と評価結果 2023 年 4 月 1 日より 2024 年 3 月 31 日

	改善目標項目	2023 年度目標	2023 年度実績	実績評価
1	電力の削減（MWh）	224 以下	153.8	達成
2	二酸化炭素排出量（t）	112 以下	7.813 ^{※1}	達成
3	製品不良金額（千円）	3,000 以下	3,164	未達成
4	産業廃棄物量削減（Kg）	2,712 以下	3,023 ^{※2}	未達成
5	水道水の削減（㎡）	454 以下	491	未達成
6	高効率製品の受注	受注	受注	達成
7	ソーラーパネル/屋根貸事業	維持管理	維持管理	達成

※ 1. 二酸化炭素排出量：電力は 2020 年(株)エナリス・パワー・マーケティング調整後二酸化炭素実排出係数 0.000 (kg-CO2/kWh)、灯油 2.49(kg-CO2/L)、ガソリン 2.32(kg-CO2/L)で算出

※ 2. 産業廃棄物内訳（一般廃棄物 1,050 kg、産業廃棄物 1,973 kg、有価物は含まない）

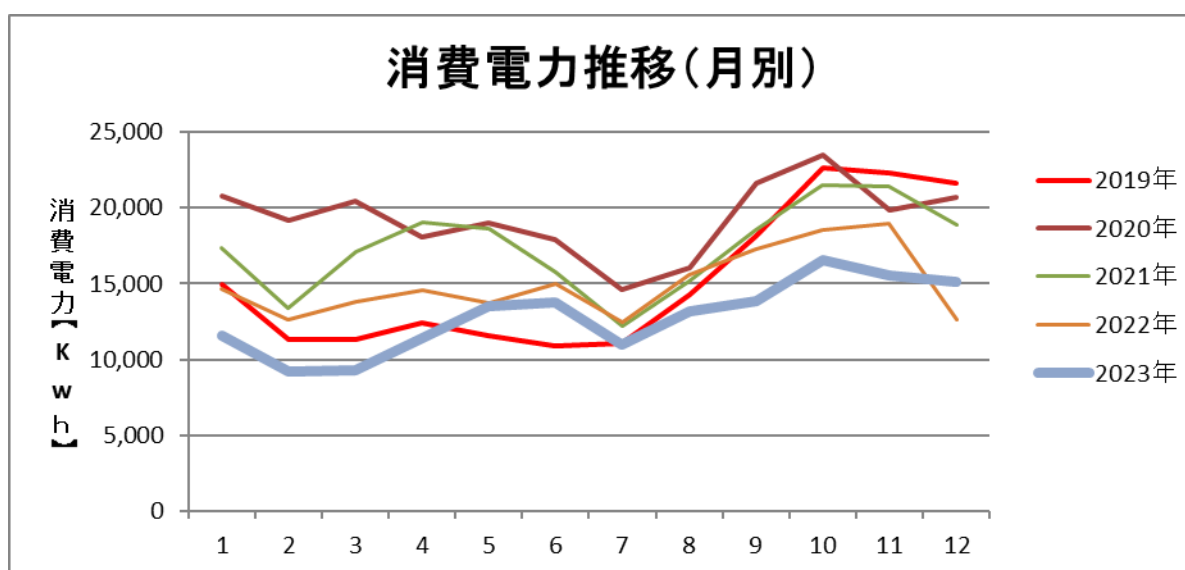
2) 活動実績

(1) 電力の削減

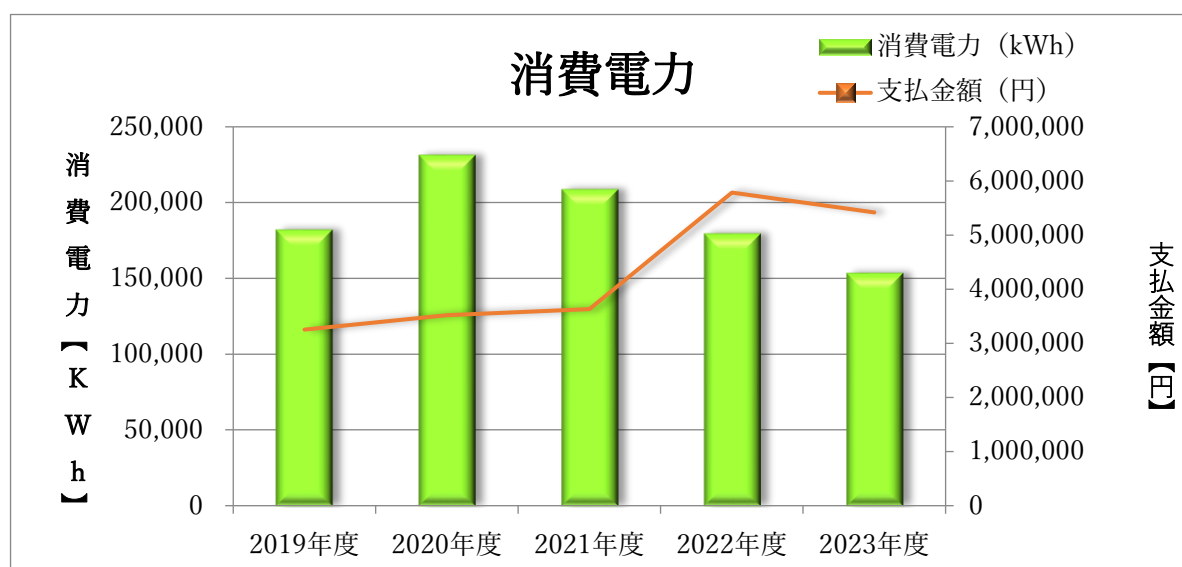
期末にかけ生産数が落ちた影響もあったが、タイマー設定を用いた空調稼働や、生産の効率化の効果もあり前年度比85.5%（179.8 MWh⇒153.8 MWh）と削減でき、目標を達成した。

10月～12月の消費電力を以下に抑えるかが課題となっている。

図－1－1および図－1－2参照。



図－1－1 月別消費電力量の推移



図－1－2 年間消費電力、支払金額推移

（２）二酸化炭素排出量の削減

電力契約を再生可能エネルギーの利用と J-クレジットで調整するプランに変更し、9 割以上占める電力からの二酸化炭素排出を大幅に削減する事が出来た。Web 会議がメインとなり、ガソリン由来の二酸化炭素排出量も消費も低く抑えられている。

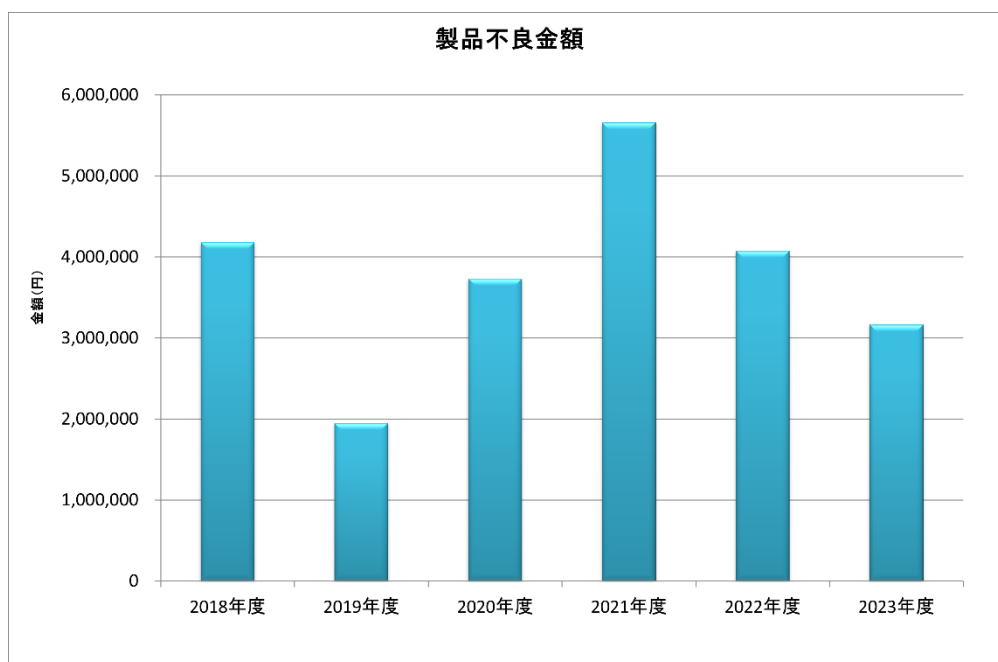
（３）製品の不良率の低減

目標 3, 0 0 0 千円に対し 3, 0 2 3 千円と未達成となった。

しかし、前年度比 7 7 %（4, 1 6 4 千円⇒製品立ち上げロスを厳密に集計が出来るようになり、不良金額として計上されたためである。

新機種の工程改善による不良削減が課題として残っている。

図－ 2「製品不良金額の推移」参照。

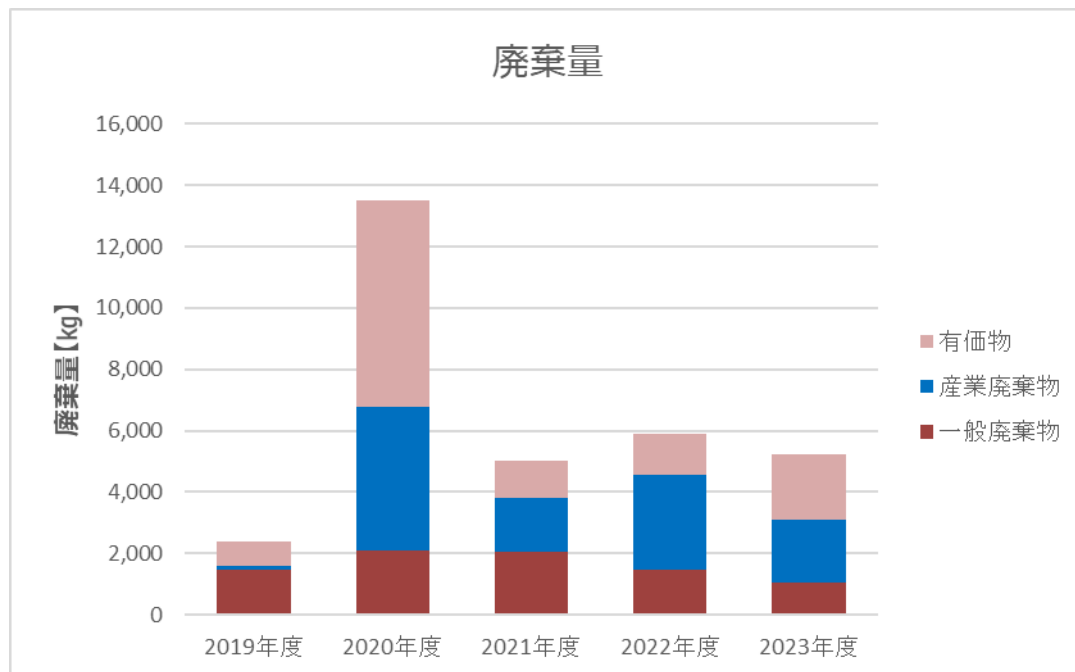


図－ 2 製品不良金額の推移

（４）産業廃棄物量の削減

目標値 2, 7 1 2 kg 以下に対し、3, 0 2 3 kg の結果となり目標を超えた結果となったが、昨年度より減少できている。

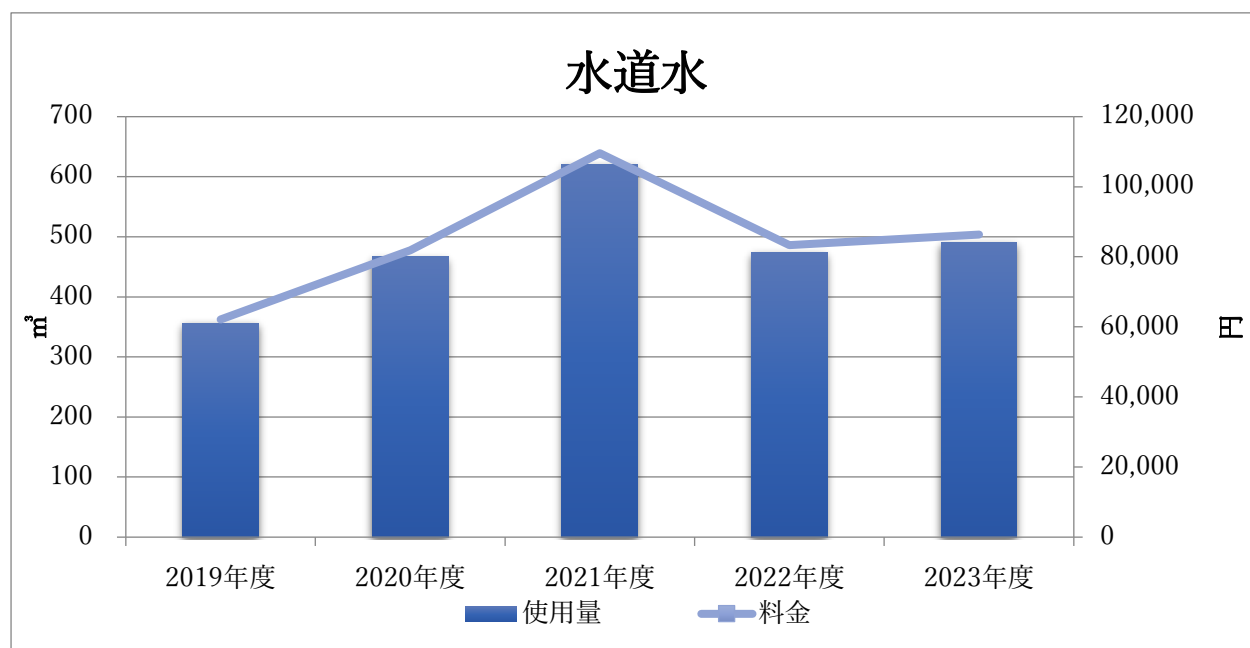
図－３「廃棄物の推移」参照



図－３ 廃棄物の推移

（５）水道水の削減

水道水に関しては維持管理を行っている。社内施設において漏水が発覚した。4 9 1 m³で未達成となった。



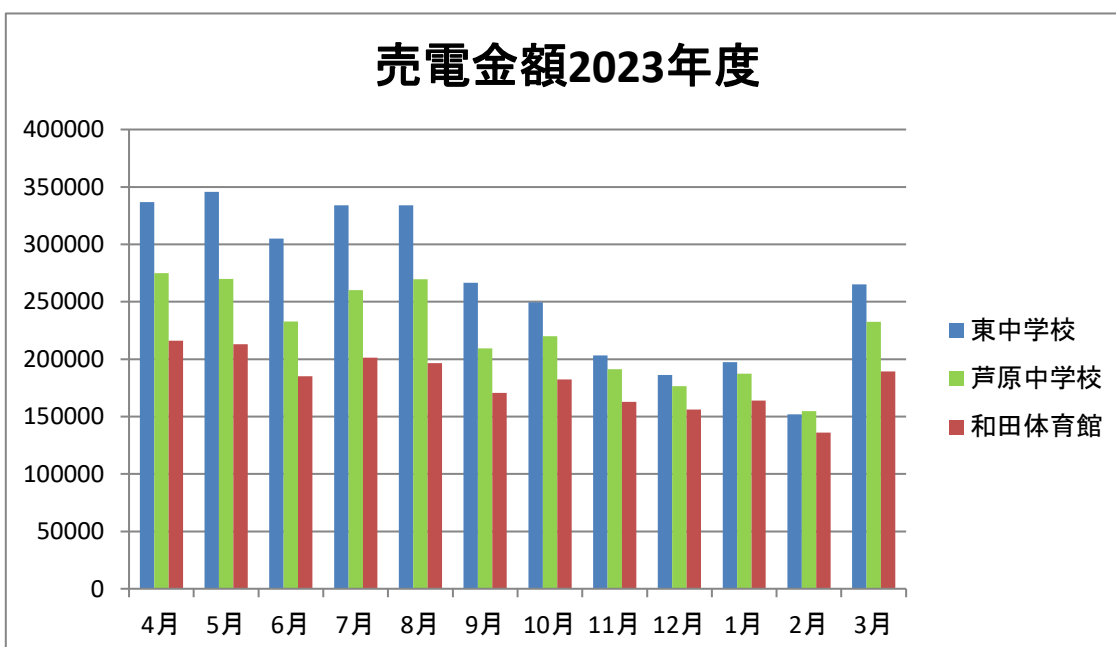
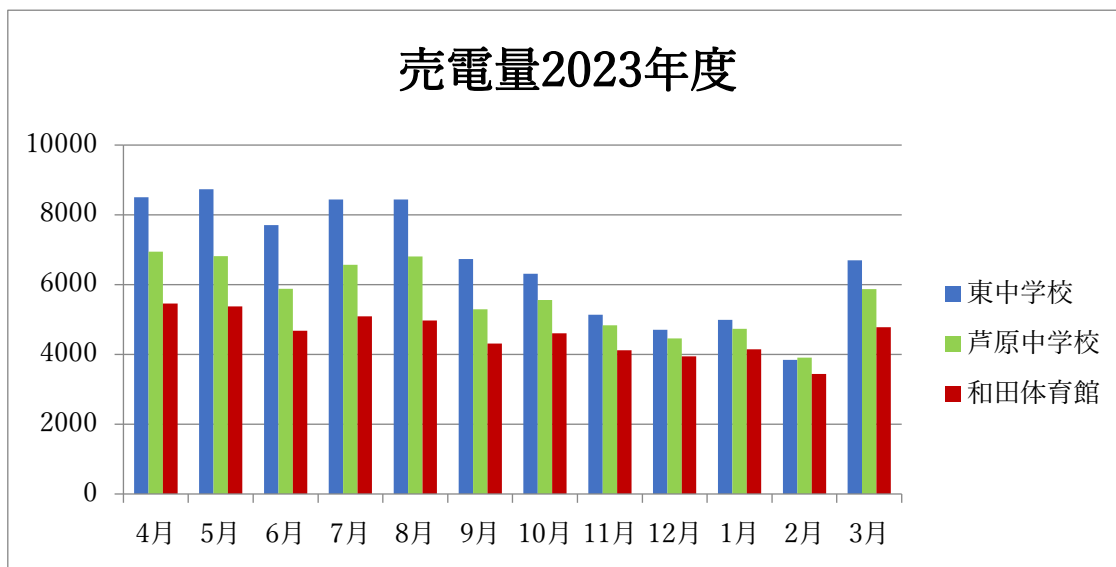
図－４ 水道水使用量と使用金額の推移

（６）高効率製品の受注

省エネ設備のほか、次世代自動車関連など高効率コイル、省スペース化の実現を求められる製品などなど、新規試作受注が増えた。

（７）ソーラーパネル屋根貸事業

発電量は天候に左右されるが毎月発電量を確認し、設備異常がないか確認を行った。



4. 2024年度環境目標取り組み内容

・電力の削減

前期同様、待機電力を削減する為、稼働タイマーを各設備に設定。消費電力が多い試験機は、効率よく使用する事で電力消費削減させていく。新規設備の稼働により生産効率を上げ、夜間製造を少しでも減らす。

・二酸化炭素排出量削減

二酸化炭素排出を低減させるため、環境配慮型プランへの変更を実施し効果が確認できている。冬季暖房の消費エネルギーを削減する。

・製品不良金額の削減

製品品質基準を新規に取り交わすことで源流工程での対策を進めて不良金額を低減させる。

・ゴミ廃棄量の削減

リサイクル可能な企業が見つかり、リサイクル材として有価物化する。

・水道水の削減

手洗い励行を進めつつ、無駄遣いをしないよう啓蒙活動が続ける。漏水が発生していないかチェックを確実に行う。

・高密度、高効率製品の受注

E V化の流れにより、当社の高密度、高効率コイルは、に対する期待が高まっており、各社より問い合わせや、横展開による試作・量産案件も増えてきている。研究開発段階よりチームとして参画し、試作、量産受注へ確実に結び付けて行く事とする。

・ソーラーパネル屋根貸事業

発電量を監視する事で設備異常が無いか確認し維持管理を行う。

5. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社は、過去10年間近隣や関係行政機関、及び顧客からの指摘や指導、訴訟等はありませんでした。また、当社 環境管理責任者（小林延行）が中心となり、関係法令を改めてチェックした結果も、違反はありませんでした。

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規および遵守状況は、表3「適用環境法律と遵守状況」の通りです。

表 3 適用環境法律と遵守状況

適用法律名	対象設備及び内容	法律遵守
廃掃法	適切処置	適法
消防法	灯油タンク（220 リットル）届け出	適法
浄化槽法	浄化槽	適法
労働安全衛生法	化学物質取り扱いその他	適法
劇毒物取締り法	取り扱い、表示等	適法
フロン排出抑制法	2015 年 4 月施行。設備簡易点検	適法
廃棄物処理法	水銀使用製品の適正処理 識別保管	適法

6. 経営者による全体評価と見直しの結果

当社の高密度コイルを使い、曲げる、圧縮成型する等の特殊加工を施すことにより、これまでにないモータ特性が得られることとなります。現在、この技術を試作レベルでトライしており、量産になり実用化された暁には、従来の改善されたモータよりも更に 10 %位アップの特性が得られることが期待され、さらなる貢献ができるようになります。

100%再生可能エネルギーによる電気を使っているということであるが、基本的な電気の節減はあくまで必要であります。今進めている自動化、ロボット化等による生産が、今後環境負荷にとっては、どのようなメリット或いはデメリットがあるかも考えつつ推進する必要があります。